

【六月の言葉（平成二十七年）】

かしこ

賢くなることばかり教える世の中に、

自らの愚かさを気づかせる教え、

それが浄土真宗です。

自己を磨いて賢い人・偉い人になって救われる宗教が多い中、

浄土真宗は、逆に愚かになって救われる教えです。

自分の愚かさや罪深さに気づくことは難しいことですが、親鸞聖人は、自身はどこまでも煩惱具足の凡夫^②と見抜かれました。

私たちはすぐに「あの人よりはまだまだましだ」「どうして私が罪深いのですか」と思ってしまうがちです。教えを聞き、み仏の光に照らされなければ気づけません。

浄土真宗は、この私そのまま救われる教えです。

自分は善人であり、悪いこともせず立派に生きていると思つている間は救われません。私は本当に愚かで、自力では救われないと気づいた時、阿弥陀仏に救われているのです。

①煩惱具足ほんのうぐそく＝煩惱が十分に備わっていること

②凡夫ほんぶ＝煩惱に束縛そくばくされて迷っている人